



**ミネベア株式会社決算説明会**  
**2004年3月期中間決算**

2003(平成15)年 11月14日

代表取締役社長執行役員 山本 次男

## 2004年3月期中間期業績

(百万円)	---- 2003/3期 ----		2004/3期	伸び率 前年比	上期	
	上期	下期	上期		期初計画	計画比
売上高	137,249	134,953	133,741	-2.6%	136,000	98.3%
営業利益	10,176	9,176	9,467	-7.0%	8,800	107.6%
経常利益	7,667	5,753	7,558	-1.4%	6,300	120.0%
税引前利益	6,817	△ 6,322	6,299	-7.6%	5,600	112.5%
純利益	2,543	△ 4,977	2,726	+7.2%	2,500	109.0%

上期利益は計画を達成

2003年11月14日

1



2004年3月期の上期の売上高は1,337億円、営業利益は94億円、経常利益は75億円、当期純利益は27億円となりました。第1四半期が極めて好調であった前年上期に比べて、当期利益が7.2%増加したのを除いて、減収減益となりましたが、売上高を除き期初の計画を上回ることができました。

## 第2四半期業績

(百万円)	2003/3期	--- 2004/3期 ---		2Q 伸び率	
	2Q	1Q	2Q	前年同期比	前四半期比
売上高	64,882	66,489	67,252	+3.7%	+1.1%
営業利益	4,145	4,259	5,208	+25.6%	+22.3%
経常利益	3,143	3,285	4,273	+36.0%	+30.1%
税引前利益	2,614	2,177	4,122	+57.7%	+89.3%
純利益	640	421	2,305	3.6倍	5.5倍

**第2四半期は増収増益**

2003年11月14日

2



第1四半期は低調に推移しましたが、上期の半ば以降、PCを中心とする情報通信機器市場が回復に向かい、第2四半期は当社主要製品であるPC部品やHDD部品、OA機器や家電機器向けの部品などの受注が大幅に増加しました。国内外における激しい競争状態による単価下落と円高のマイナス影響を受けましたが、収益が回復に向かい、特に第2四半期には、収益改善が課題となっていた事業部門の収益向上を図ることができました。

## 中間期セグメント別収益

(百万円)	--- 2003/3期 ---		2004/3期	伸び率 前年 同期比
	上期	下期	上期	
<b>〔売上高〕</b>				
機械加工品	60,309	57,808	55,665	-7.7%
ベアリング関連製品	50,058	47,880	47,128	-5.9%
その他機械加工品	10,251	9,929	8,538	-16.7%
電子機器	76,940	77,144	78,076	+1.5%
回転機器	38,933	40,255	43,642	+12.1%
その他電子機器	38,005	36,892	34,435	-9.4%
<b>合計</b>	<b>137,249</b>	<b>134,953</b>	<b>133,741</b>	<b>-2.6%</b>
<b>〔営業利益〕</b>				
機械加工品	9,163	9,356	9,178	+0.2%
電子機器	1,013	△ 181	289	-71.5%
<b>合計</b>	<b>10,176</b>	<b>9,176</b>	<b>9,467</b>	<b>-7.0%</b>

電子機器セグメント  
営業利益の計画を  
上回る改善により、  
上期営業利益 95億円、  
計画比 108%

### 売上高内訳 期初計画

ベアリング関連製品	469.0億円
その他機械加工品	99.5億円
回転機器	453.5億円
その他電子機器	338.0億円

### 8月7日に営業利益内訳を修正

機械加工品	91 → 94 億円
電子機器	△3 → △6 億円
合計	88 億円

2003年11月14日

3



電子機器セグメントの営業利益改善につきましては、好調な販売を受けてスピンドルモーターの収益性が予想以上に改善したことと、ライティングデバイスが8月から利益化した結果です。

機械加工品セグメントの営業利益では、ロッドエンド・スフェリカルベアリングなどの航空機業界向けベアリングと航空機用ネジや特殊機器の部門が予想以上に足を引っ張りましたが、営業利益合計としては当初計画の88億円を6億円上回る94億円となりました。

## 第2四半期セグメント別収益

(百万円)	----- 2003/3期 -----				--- 2004/3期 ---		2Q 伸び率	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	前年同期比	前四半期比
<b>〔売上高〕</b>								
機械加工品	31,668	28,641	28,723	29,085	28,606	27,059	-5.5%	-5.4%
ベアリング関連製品	26,420	23,638	23,845	24,035	23,959	23,169	-2.0%	-3.3%
その他機械加工品	5,249	5,002	4,879	5,050	4,646	3,892	-22.2%	-16.2%
電子機器	40,699	36,241	40,000	37,144	37,883	40,193	+10.9%	+6.1%
回転機器	20,793	18,140	20,521	19,734	21,458	22,184	+22.3%	+3.4%
その他電子機器	19,908	18,097	19,480	17,412	16,424	18,011	-0.5%	+9.7%
<b>合計</b>	<b>72,367</b>	<b>64,882</b>	<b>68,723</b>	<b>66,230</b>	<b>66,489</b>	<b>67,252</b>	<b>+3.7%</b>	<b>+1.1%</b>
<b>〔営業利益〕</b>								
機械加工品	5,098	4,065	4,771	4,585	4,908	4,270	+5.0%	-13.0%
電子機器	933	80	748	△ 929	△ 648	937	11.7倍	-
<b>合計</b>	<b>6,031</b>	<b>4,145</b>	<b>5,519</b>	<b>3,657</b>	<b>4,259</b>	<b>5,208</b>	<b>+25.6%</b>	<b>+22.3%</b>

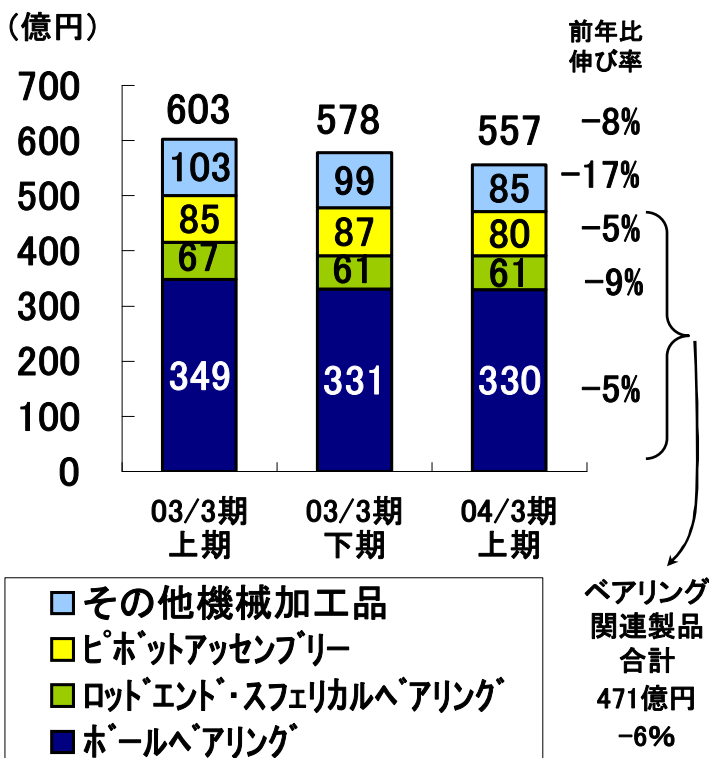
2003年11月14日

4



四半期毎のセグメント別収益です。

# 機械加工品セグメント 売上高



(前年上期との比較)

ボールベアリング:

ミニチュア・小径ボールベアリングの外販数量は増加したが単価が下落。

ロッドエンド&スフェリカルベアリング:

航空業界向けが引き続き低迷。

ピポットアッセンブリー:

販売数量は大幅に増加したが単価が下落。

その他機械加工品:

需要低迷によりネジ及び特殊機器の売上が減少。他に、IMC Magnetics Corp. 売却の影響。

2003年11月14日

5



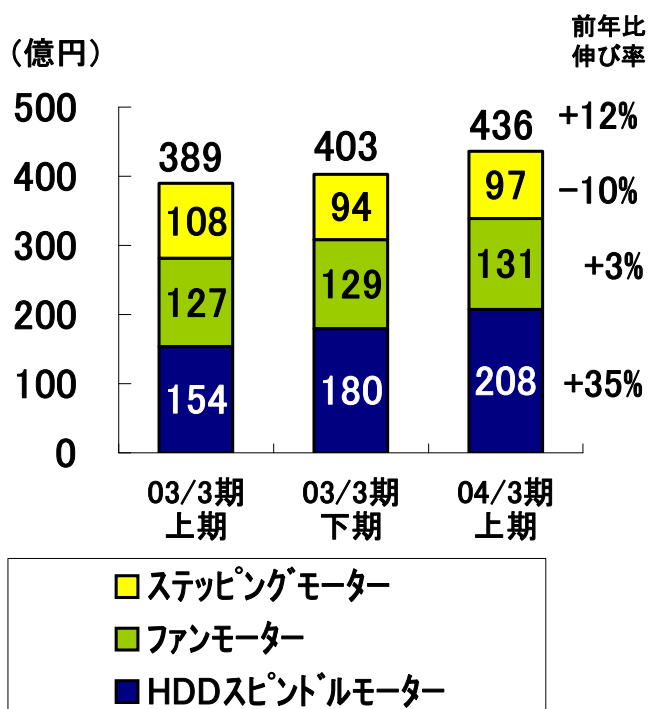
主要製品であるボールベアリングの売上高は、今上期は前年上期より5%減少し330億円となりました。ミニチュア・小径ボールベアリングの販売数量は前年上期より増加しましたが、単価下落の影響を受けました。

ロッドエンド・スフェリカルベアリングの売上高は61億円と、前年上期より9%減少しました。民間航空機向けの需要が引き続き低迷しています。

ピポットアッセンブリー部門の売上高は80億円と、前年上期より5%減少しました。第2四半期に、HDD市場の回復を受けて旺盛な需要のもと販売数量が大幅に拡大しました。しかし、第1四半期までに下げ止まり感の兆しがあった単価は、第2四半期にやや加速して下落しました。

その他機械加工品部門の売上高は85億円と、前年上期より17%減少しました。主な要因は需要低迷による航空機用ネジ及び特殊機器の売上減少と、米国のIMC Magnetics Corp.の事業を7月末に売却したことによる減収です。

# 電子機器セグメント 回転機器部門 売上高



**HDDスピンドルモーター:**  
FDBモーターの販売が大幅増加。

**ファンモーター:**  
数量増加だが、平均単価の下落により売上高は微増。

**ステッピングモーター:**  
第1四半期の光ディスク業界の在庫調整による需要低迷と競争激化の影響。

2003年11月14日

6



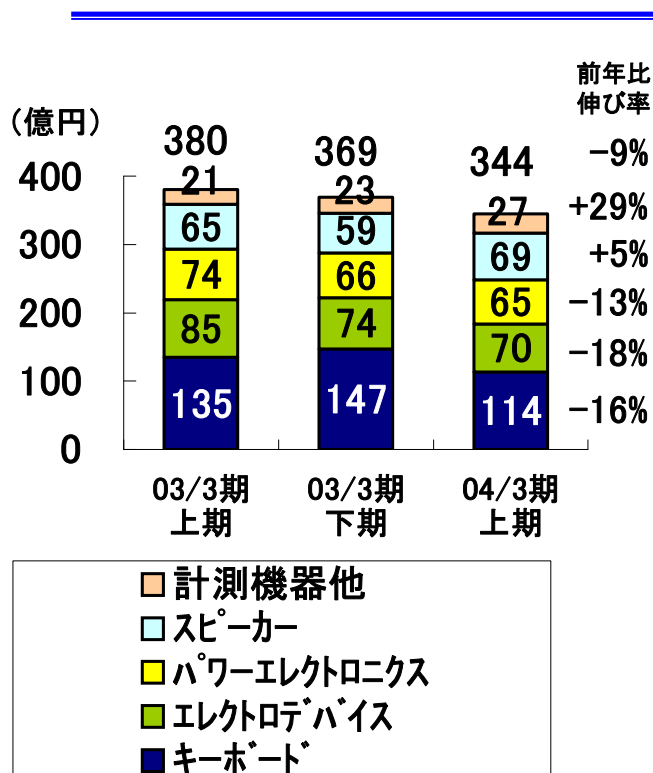
回転機器部門は引き続き売上高を伸ばしました。上期の売上高は436億円と昨年度上期と比較して12%増加しました。ファンモーターとHDDスピンドルモーターは過去最高の販売生産数量を更新しています。

スピンドルモーターの売上高は208億円と、前年上期比35%の増収になりました。需要の増加と当社の得意先の販売好調により、3.5インチデスクトップ用FDBモーターの販売が増加しました。

ファンモーターの売上高は前年上期比3%増の131億円でした。販売数量は増加傾向が続いていますが、単価下落とゲーム機向けファンの増加などによる製品構成の変化により、第2四半期の売上高が伸び悩みました。

ステッピングモーターは、上期の売上高は前年上期比10%減の97億円でした。ハイブリッドタイプの販売は比較的安定して推移しましたが、PMタイプが第1四半期の光ディスク向けの需要低迷と競争激化による全般的な単価下落の影響を受けました。

# 電子機器セグメント その他電子機器 売上高



前期事業終了したFDD及び  
終了予定の電源等事業の減収を  
除くと、3%の減収

## キーボード:

客先の在庫調整、SST立ち上げ  
遅れに起因するシェア低下。

## エレクトロデバイス:

FDDの事業終了による減収。  
ライティングデバイスの事業は  
急拡大。

## パワーエレクトロニクス:

電源事業終了課程に伴う減収。

## スピーカー:

PC関連品の需要増。

## 計測機器:

設備投資増に伴う需要増加。

2003年11月14日

7



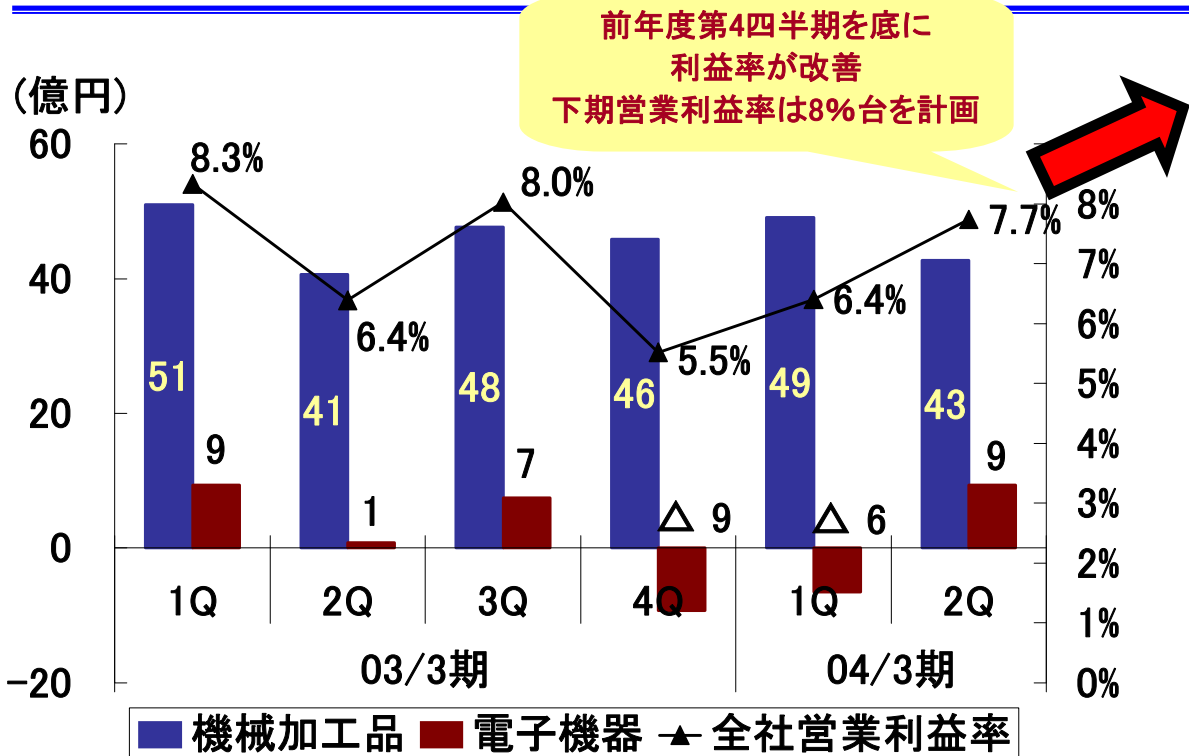
その他電子機器部門全体の上期の売上高は344億円と、前年上期より36億円減少しましたが、そのうち25億円は、前期に撤退したFDDの売上高17億円及び、撤退を決定しましたスイッチング電源及び関連製品の売上高減8億円です。

キーボードの上期の売上高は前年上期比16%減の114億円でした。第2四半期の販売は需要回復と得意先の在庫調整の終了により、第1四半期より若干回復しましたが、単価競争の加速化と中国の新工場の立ち上げ遅れに起因するシェア低下により、計画を下回る販売水準が続きました。

エレクトロデバイスの売上高は、前年上期比18%減の70億円となりましたが、FDDの事業終了による減収を除くと増収となりました。増収の最大のけん引役はライティングデバイス事業です。当社の高性能バックライトが客先の高評価を得ることができ、携帯電話主要モデル向けの生産も開始し事業が軌道に乗ってきました。



# セグメント別営業利益推移



2003年11月14日

8



全体の営業利益率は、昨年第4四半期の5.5%を底に第2四半期は7.7%まで回復しました。下期は8%台までの回復を計画しています。

## 第2四半期 用途別売上高・地域別売上高

2Qは1Qに対し、エアコン向けの減少により家電機器向けが減少  
需要回復によりOA機器向け  
及びPC関連向けが増加

### 用途別売上高

	自動車	航空・宇宙	家電機器	情報通信機器(OA)	PC及び周辺機器	モータ	その他	合計
売上高比率	7.6%	8.7%	9.8%	10.7%	45.7%	5.6%	12.0%	100.0%
前四半期比伸び率*	+3.4%	-12.4%	-19.8%	+32.1%	+6.3%	+8.5%	-9.3%	+1.1%

\* 1Qとの比較

### 地域別売上高

	日本	アジア (除 日本)	北米	欧州	合計
売上高比率	24.4%	47.0%	17.0%	11.6%	100.0%
前四半期比伸び率*	-0.2%	+4.0%	+0.5%	-5.9%	+1.1%

\* 1Qとの比較

アジア地域の売上が伸長

2003年11月14日

9

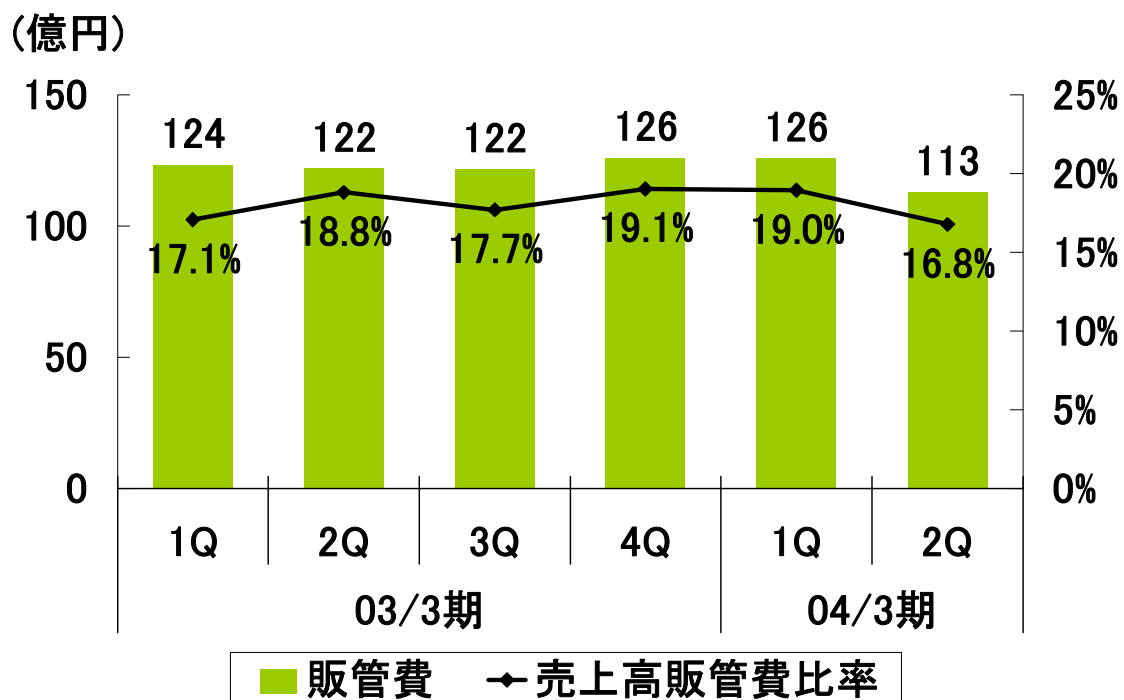


第2四半期は第1四半期と比較してPCやHDD、コピー機や複合機などのオフィス機器向けに主要製品の売上が伸びました。携帯電話等向けライティングデバイスの売上拡大も情報通信機器分野向けの高い伸び率の理由となっています。

一方、家電機器向けの売上高の減少は、エアコン向けのボールベアリングの季節的な需要減少と、スイッチング電源及び関連製品のエアコン向け売上減少によります。

地域別では、アジア地域の売上が引き続き伸長しました。第2四半期も中華圏が引き続き伸び率1割以上の増収となりました。

## 販管費推移



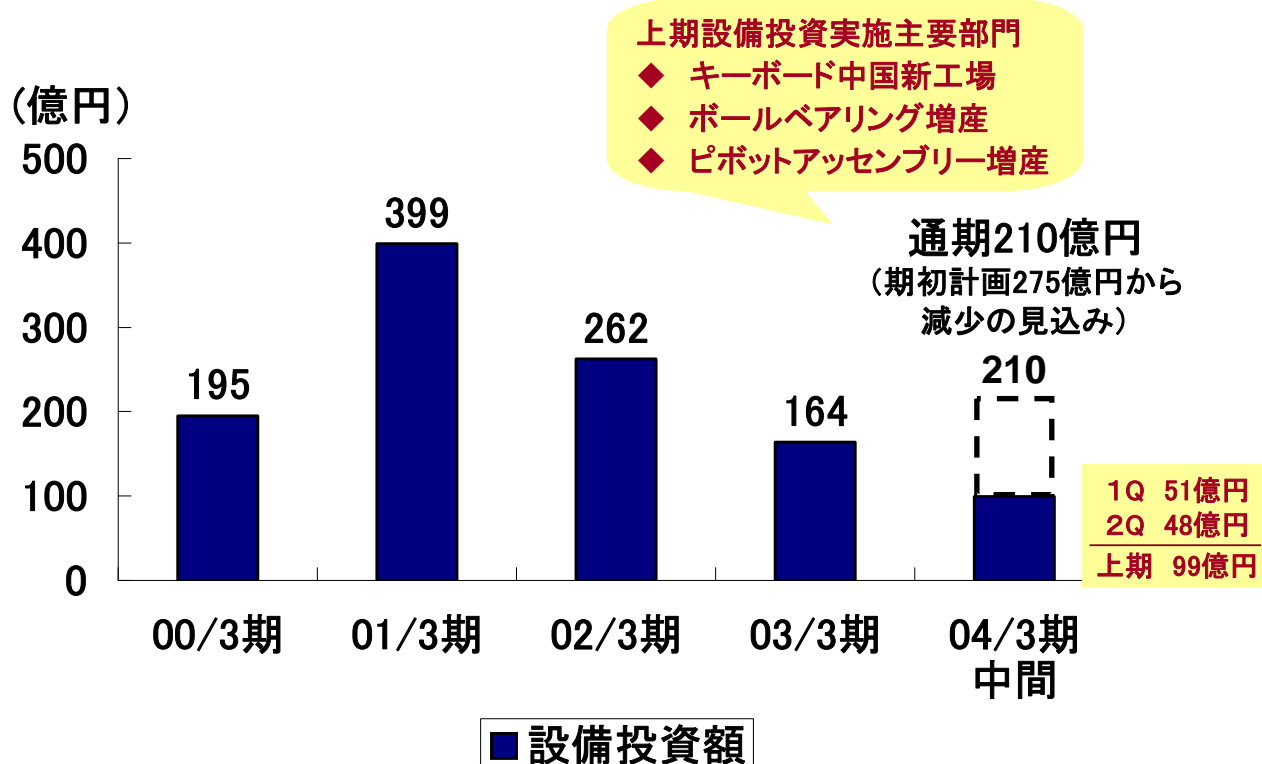
2003年11月14日

10



第2四半期は販管費を大幅に削減することができました。あらゆる分野において経費の削減に取り組んでいます。

# 設備投資額推移



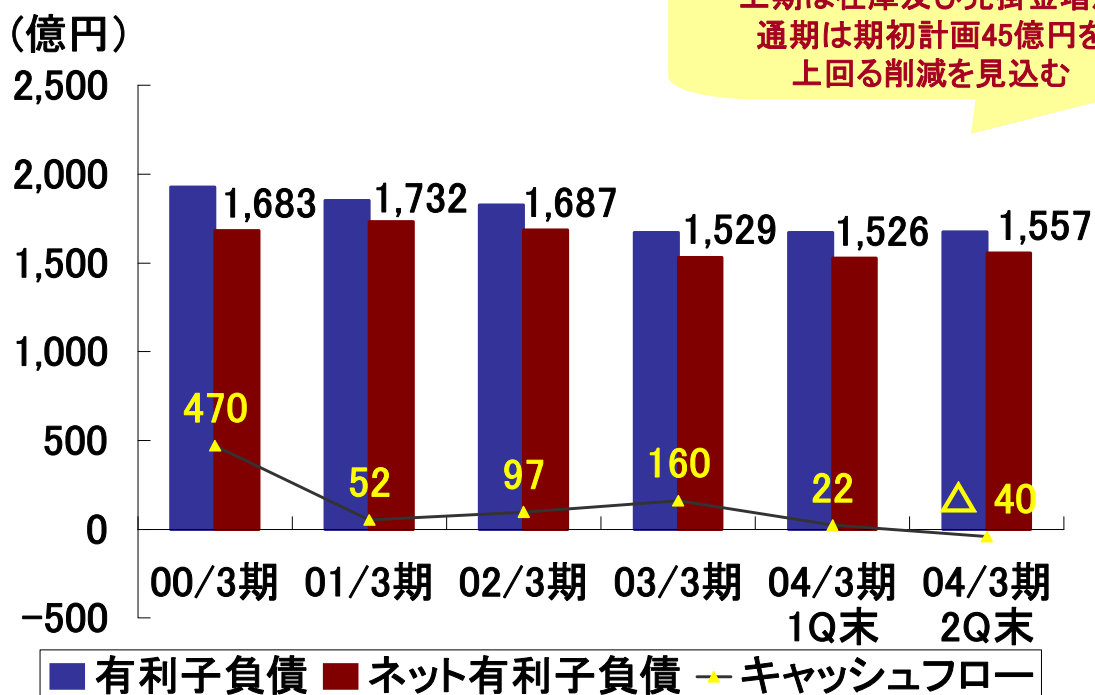
2003年11月14日

11



中間期の設備投資実施額は99億円となりました。上期は中国のキーボード工場の立ち上げ、ボールベアリングの増産投資を実施しました。期初予定では、通期の設備投資額は275億円でしたが、各部門が取り組んでいる生産性の向上のための施策が功を奏しており、通期の設備投資額は210億円にまで大幅に削減される予定です。

## 有利子負債推移



2003年11月14日

12



中間期末の有利子負債から現預金を差し引いたネット有利子負債は1,557億円となり、3月末より増加しました。在庫増と売上増加傾向に伴う売掛金の増加によるものです。通期は設備投資計画の減少も見込まれ、期初計画の45億円を上回る削減が可能とみています。

# 情報モーター事業統合

**ミネベア**

ベアリングタイプ ファンモーター  
ハイブリッド・PMタイプ ステッピングモーター

生産技術力

**松下電器産業**

スリーブタイプ ファンモーター  
PMタイプ ステッピングモーター  
振動モーター  
ブラシ付モーター

商品開発力

出資比率60%予定

2004年4月設立予定

出資比率40%予定

**情報モーター統合会社**

情報モーター分野で世界NO.1の製品群・技術力・競争力

市場

光ディスク デジタル家電 PC・サーバー 家電  
(CD-ROM/RW・DVD-ROM/RW) OA ゲーム機 AV デジタルカメラ・DVC  
(プリンター、PPC、スキャナー、複合機) 携帯電話

2003年11月14日

13



第2四半期は、いくつかの重要な成果を挙げることができました。

8月27日に松下電器産業株式会社と情報モーター四商品の合弁会社を設立することで基本合意しました。現在、12月の最終合意に向けての準備が進行中です。詳細の発表は最終合意後までお待ちいただきたいと思ます。

# キーボード上海新工場量産開始

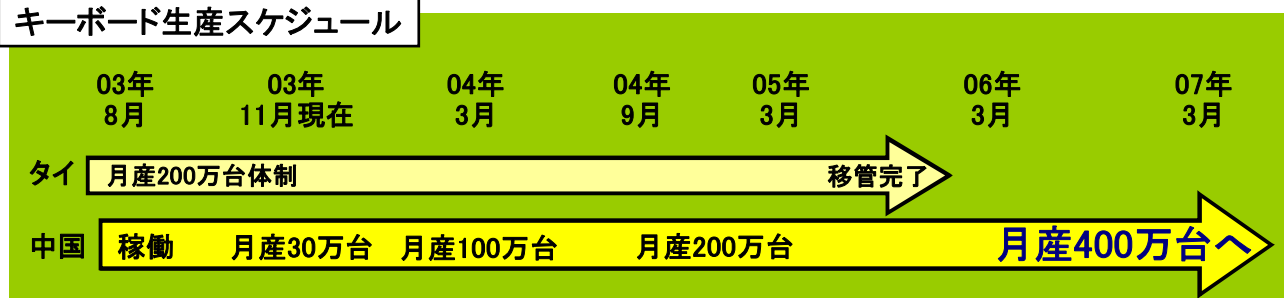
## Shanghai Shun Ding Technologies Ltd.

- Huan Hsin Group と設立した合弁会社の中国生産子会社。
- 8月に稼働開始。11月月産30万台予定。
- 今期設備投資予定額は約40億円。



量産モデルでの大幅なコストダウンの達成へ。納期対応強化及び物流費の削減と合わせて競争力強化。高付加価値製品の製品開発力の強化も図り、キーボードのトップメーカーを目指す。

### キーボード生産スケジュール



2003年11月14日

14



8月末にキーボードの中国新工場の稼働が開始しました。

SARSの影響等により当初の予定からは遅れましたが、11月の生産は月産30万台の予定です。今後タイからのシフトを本格化させ、来年3月に月産100万台、2005年半ばにタイから完全に移管を完了する予定です。

今期のキーボード事業は、SSTの立ち上げ費用とシェア低下により収益が低下していますが、SSTの強みを生かしてコスト低減及び販売・物流体制強化により量産モデルでの競争力強化を狙うと共に、開発陣の強化により高付加価値製品分野でのシェア拡大を図り、利益の出せる体制を確立して参ります。

# ライティングデバイス製品ロードマップ

## 携帯電話液晶市場

暦年ベース	～Q4/02	Q1/03	Q2	Q3	Q4	Q1/04	Q2	Q3
	カラー	～	～	～	～	～	～	～
日本	カメラ付加速 両面液晶加速	高精細化	大型画面化	カメラ			動画	動画対応(TV、TV電話)

## ライティング要求仕様

サイズ (日本)	1.8～2.2"		2.4" (505i)					
輝度 (2"LED3pcs)	高輝度化 (1800cd)		高輝度化 (2000cd)		高輝度化 (2200cd)		高輝度化 (4000cd)	
厚み		薄型化 (dual-type)			薄型化 (0.6mm以下)		薄型化 (一層の薄型化)	
色味							色味のコントロール	
	高輝度バックライト 製品化	両面バックライト 製品化		コーナーLEDバックライト 製品化			薄型バックライト 製品化予定	

## 中小型カラー液晶市場規模

携帯カラー PDA・DSC・ カーナビ	02年 142百万台 (携帯100、他42)	03年 295百万台 (携帯240、他55)	04年 375百万台 (携帯310、他65)
	出所: 日経BPCConsulting, Inc.参照		

2003年11月14日

15



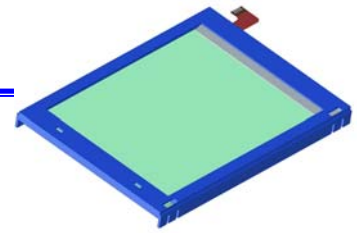
新規事業としてライティングデバイス事業が軌道に乗って参りました。フロントライトからバックライトへの事業転換は成功し、現在の新規案件のほとんど全てがバックライトです。

バックライト後発の当社としては、日本市場向けに他社を上回る性能を持つバックライトの開発を強力に進め、昨年度後半に市場で最高水準の輝度の製品を市場投入、次いで、両面バックライトも製品化しました。現在は、コーナーLEDバックライトの量産が開始しています。来年早々には薄型バックライトも製品化予定です。

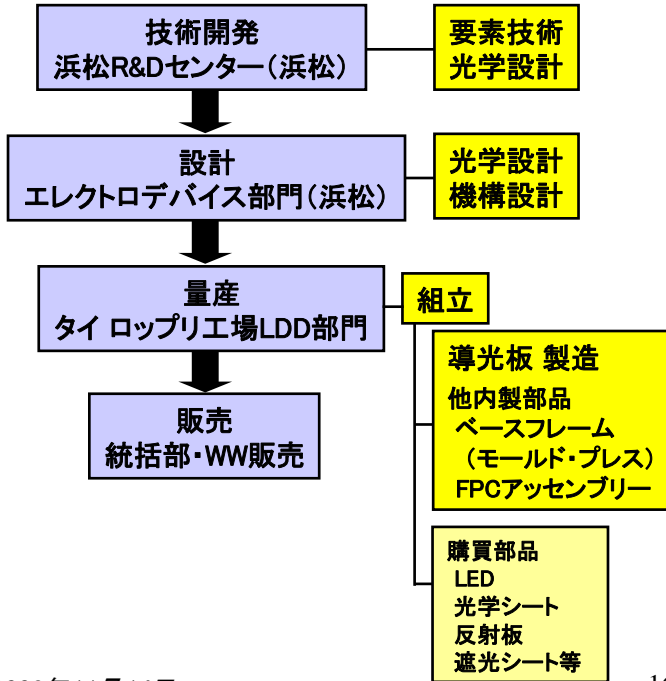
当社は市場動向を見越した製品を開発することにより、市場シェアをさらに高めて事業を拡大させる予定です。



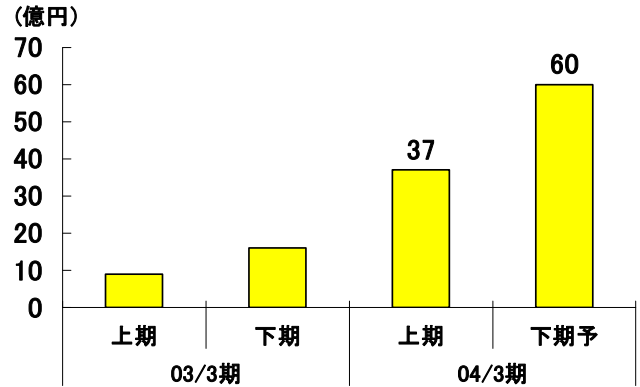
# ライティングデバイス事業体制



精密金型技術と一貫生産体制により  
高性能・高品質・低価格を実現



ライティングデバイス売上高



2003年11月14日

16



当社の強みは、光学設計技術に加えて、金型技術を活かした導光板の開発・製造、また、一貫生産体制の強みを活かしたユニットとしての開発・設計・製造です。

上半期のライティングデバイスの売上高は37億円と従来の水準から大きく伸びましたが、携帯電話の主流モデルと言われている製品に当社のバックライトが採用されたことが貢献しました。また、その他にデジカメやPDA向けへの売上も引き続き伸びています。

下期は一部の主要製品がモデルの端境期となりますが、売上高は60億円の見込みで、通期では期初の売上高目標の90億円を充分達成できる見込みです。第2四半期に歩留まりの安定化と生産性の大幅な改善が進み、損益分岐点である売上高の水準を越えました。今後は安定した利益を見込みます。

## 今期重点施策の進捗状況

---

### 施策6項目

1. ボールベアリング事業の拡大及び強化
2. HDDスピンドルモーターの黒字化
3. ピボットアッセンブリーの採算性改善
4. その他の電子機器製品事業の収益性回復
5. ファンモーター事業の一層の拡大
6. 電源及び関連事業の終了

2003年11月14日

17



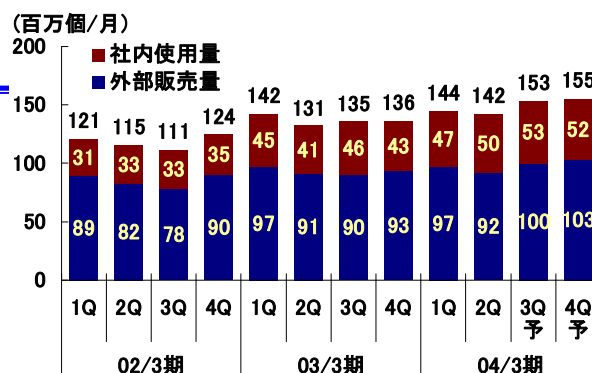
今年5月の決算説明会で収益改善のための今期重点施策を発表しました。各施策の進捗状況につき説明します。

# 今期重点施策の進捗状況 ボールベアリング

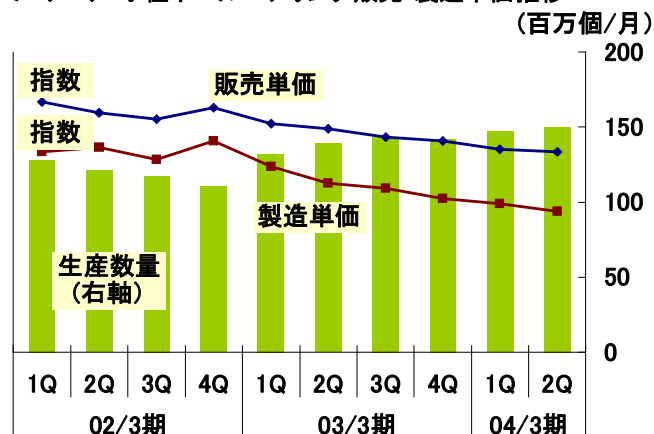
## ミニチュア・小径ボールベアリング

- 2Qもコスト低減が進展。単価下落を吸収。
- 月1億8,000万個販売・生産に向けて拡販を推進。
- 下期は内販が引き続き増加。合わせて外販も増加。
- 月産3,000万個増産投資額は生産効率化の一層の進展により50億円を大幅に下回る見込み。増産投資は販売動向を見極めながら実施。

ミニチュア・小径ボールベアリング販売数量推移



ミニチュア・小径ボールベアリング販売・製造単価推移



2003年11月14日

18



第3四半期はボールベアリングの需要が回復に向かう見込みです。10月の社内使用も含めた販売は過去最高の1億6,000万個を超えました。今年はエアコン向けの需要が例年より前倒しで始まりました。これは、今年の猛暑で中国の在庫が掃けたからです。さらに、ファンモーター向けもPC需要の回復を受け、9月から勢いがつきましたが10月は販売が一層増加しました。

月1億8,000万個の販売・生産に向けて引き続き拡販を図っています。各地域の各分野でシェアは確実に拡大していますので、今後、需要が拡大する局面で、その成果が表れてくるものとみています。

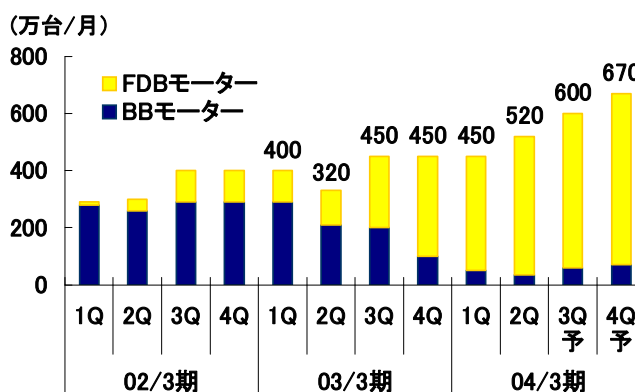
単価は第2四半期は第1四半期からほぼ横ばいでしたが、昨年と比べ円高の影響もあり年率では約6%下落しています。一方、製造単価は販売単価の下落を上回って低下しています。引き続きコスト削減を強力に進めます。

月産1億8,000万個体制の構築につきましては、販売動向などを見極めながら慎重に設備投資を実施していますが、増産設備投資額は生産効率化の急速な進展により当初予定の50億円を大幅に下回る見通しとなりました。

## 今期重点施策の進捗状況 HDDスピンドルモーター

- 03年9月に単月黒字化を達成。  
下期、黒字安定化を目指す。
- 3Qは2Q比約15%増、月平均600万台の販売を見込む。1.8インチ向けBBモーターが大幅増加の見込み。
- 2.5インチFDBモーターの開発は進行中。
- 3Q中にドイツのモーター開発子会社PMDMの増築に着手。

HDDスピンドルモーター販売数量推移



2003年11月14日

19



HDDスピンドルモーター事業は9月に黒字に転じました。数量効果の他、歩留まりの改善や部品コストの低減の成果です。単価は引き続き下落するとみていますが、生産効率の改善や数量増により販売価格の下落を上回るコスト削減を実現し、黒字安定化を目指します。

第3四半期は、月平均600万台の販売を見込みます。FDBモーターだけでなく、サーバー用や1.8インチ用のBBモーターの販売も増加する見込みです。

2.5インチFDBモーターにつきましては、様々な角度から取り組んでおります。自社モデルによる2.5インチFDBモーター参入につきましても、開発活動を積極的に進めております。

ドイツのモーター開発子会社PMDMの増築を第3四半期中に開始することを決定しました。ライフテスト、自動化機械設備や新製品の開発に、今まで以上のスペースが必要となってきたためです。

## 今期重点施策の進捗状況 その他の製品

---

### ◇ ピボットアッセンブリー

- 3Qの販売数量(一部内販を含む)は2Qからさらに約15%増加、月次1,700万台を越える見込み。ベアリングとのシナジー効果を追求。

### ◇ その他の電子機器製品

- ステッピングモーターやエレクトロデバイスの収益の底上げを2Qに確認、3Q以降一層の進展を見込む。
- ライティングデバイス事業が順調に拡大。8月以降黒字安定化。

### ◇ ファンモーター

- 3QはPC・サーバー向けに販売拡大の予定。

### ◇ 電源及び関連事業

- 今期末までの事業終了へ向けて進行中。生産は3Q末までに終了予定。

2003年11月14日

20



ピボットアッセンブリーは、HDDの旺盛な需要増大に支えられ、販売が急拡大しています。第3四半期の販売数量は第2四半期よりさらに15%拡大し、月平均1,700万台を超える見込みです。ベアリング事業とのシナジー効果を追求します。

その他の電子機器製品のうち、ステッピングモーターとエレクトロデバイスの事業体質改善の成果が確認できるようになりました。

ファンモーターにつきましては、第3四半期はPC・サーバー向けに販売が増加する見込みです。

電源及び関連事業につきましては、来年3月までに事業を終息させる予定です。

## 下期の見通し

---

### ➤ 10月以降の需要環境

- 景況感の改善。
- PC関連需要が好調。
- HDD需要は引き続き増加の見込み。
- 4QはPC向け以外は一層の需要拡大を見込む。

### ➤ 通期業績見込み

- 需要の回復が追い風だが為替変動の影響がマイナス。

⇒ 売上高                    期初予想 2,800億円 ⇒ 修正予想 2,750億円  
⇒ 営業利益                期初予想 210億円に変更なし

2003年11月14日

21



ボールベアリングのコスト低減、スピンドルモーターやライティングデバイスの採算性改善など、全体的な収益の底上げが図られている上に、第2四半期半ばからの需要環境は当社にとって追い風となっています。

第4四半期は、PC需要に直接連動する製品はクリスマス商戦後の調整の影響を避けられないと思いますが、ボールベアリングについてはPCファン向けの落ち込みをエアコンや家電機器向け、拡販による需要の拡大がカバーし、HDD向けスピンドルモーターについては客先数の拡大により、販売増加を見込みます。

下期の収益に対する円高などによる為替変動の影響は、売上高で80億円、営業利益で3億円とみています。したがって、通期の売上高は50億円減少の2,750億円と予想しています。営業利益につきましてはコスト削減効果もあり通期の業績計画は達成できると考えています。

## 2004年3月期通期業績見込み

(百万円)	2003/3期	2004/3期		伸び率 前年比	通期 期初計画	
	通期	上期 実績	下期 予想			通期 予想
売上高	272,202	133,741	141,259	275,000	+1.0%	280,000
営業利益	19,352	9,467	11,533	21,000	+8.5%	21,000
経常利益	13,420	7,558	9,442	17,000	+26.7%	17,000
税引前利益	495	6,299	9,701	16,000	32倍	16,000
純利益	△ 2,434	2,726	5,774	8,500	-	8,500

2003年11月14日

22



通期業績計画につきましては上記の通りです。

## 通期セグメント別収益見込み

(百万円)	2003/3期		2004/3期		伸び率 前年比	通期	
	通期	上期実績	下期予想	通期予想		期初 計画	計画比
<b>[売上高]</b>							
機械加工品	118,117	55,665	59,335	115,000	-2.6%	115,000	100.0%
ベアリング関連製品	97,938	47,128	50,272	97,400	-0.5%	94,250	103.3%
その他機械加工品	20,180	8,538	9,062	17,600	-12.8%	20,750	84.8%
電子機器	154,084	78,076	81,924	160,000	+3.8%	165,000	97.0%
回転機器	79,188	43,642	46,058	89,700	+13.3%	95,100	94.3%
その他電子機器	74,897	34,435	35,865	70,300	-6.1%	69,900	100.6%
<b>合計</b>	<b>272,202</b>	<b>133,741</b>	<b>141,259</b>	<b>275,000</b>	<b>+1.0%</b>	<b>280,000</b>	<b>98.2%</b>
<b>[営業利益]</b>							
機械加工品	18,519	9,178	10,322	19,500	+5.3%	19,600	99.5%
電子機器	832	289	1,211	1,500	+80.3%	1,400	107.1%
<b>合計</b>	<b>19,352</b>	<b>9,467</b>	<b>11,533</b>	<b>21,000</b>	<b>+8.5%</b>	<b>21,000</b>	<b>100.0%</b>

2003年11月14日

23



通期業績見込みのセグメント別詳細は上記の通りです。



# ミネベア株式会社決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。  
実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。  
実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。